

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	有限会社日本サポートリンク		
事業所名	色えんびつ・四日市		
所在地	四日市市赤堀1丁目6-2		
自己評価作成日	平成29年7月22日	評価結果市町提出日	平成29年11月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokansaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani:true&jiyosyoCd=2470200888-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	評価認証推進機構株式会社
所在地	三重県四日市市桜町3690-4
訪問調査日	平成29年 8月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「あなたらしく いつまでも」を職員全員が理解し、大切にしています。利用者様同士が思い合い、助け合いが出来る様に職員の過介入や過介護は出来る限り控え、自立支援を心掛けています。気分転換も兼ねて、外食やドライブ、地域の祭り、伊勢神宮参拝、イルミネーション等季節に応じた外出も多く取り入れています。施設内での行事にも力を入れており、近所の園児を招いての夏祭りも恒例となっています。健康管理においては、協力医療機関の方々の協力を得て密に報告・相談を行い、必要時には専門医への受診にも繋げています。各担当者は毎月のご様子を手紙にまとめてご家族に報告をしています。又、1年に4回事業所だよりを発行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

色えんびつ・四日市は、賑やかで明るく利用者の話し声や笑い声が尽きない。利用者家族も一緒に、「施設長から担当者まで情報の共有がなされ、モチベーションが高く感じられる」、「雰囲気も良く、臨機応変に対応してくれる」、「家族の思いも大切にしてくれる」と、職員の「笑顔・優しさ・親身」を高く評価している。 神社参拝、花見、散歩、買い物他、外出の機会が多く、季節のイベント、おやつ作り、脳トレ、祭り出品の作品や季節の飾り作り等、行事が盛沢山で、利用者を飽きさせない。また、毎月担当職員から利用者一人ひとりの家族に、「生活の様子が手に取るようになる。」と好評の詳細な生活状況報告書と楽しい写真入りの便りを送っている。年間事業計画書が丁寧に作成され、理念や職員の年間月次目標他、8項目に渡り図入りで分かり易く記載され、配布されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活環境が変わっても「あなたらしくいつまでも」の理念に添い、その方らしく生活出来る様に支援している。施設の近辺だけではなく、広く地域交流出来る様、地域の催し物へ参加したり、施設での催し物にご招待等している。	職員は発言しやすい雰囲気の中で、利用者一人ひとりに合ったその人らしい暮らしの継続を大切に考え、互いに意見を交わしながら実践している。利用者一人ひとりの想い、願いを可能な限り実現できるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達との挨拶、地域での祭り等への参加、近隣の託児所の園児達を招いてイベントを行うのも恒例化している。毎日の散歩の際には挨拶を心掛け、顔馴染みの関係作りに努めている。	毎年近隣託児所の園児を招いてのイベントを主催したり、地域のイベントや集会所のふれあいカフェに利用者を受け入れてもらって、繋がりを作っている。地域の人達との顔見知りの関係も築けるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の福祉体験、専門学校の実習を受け入れ、認知症に関して知って頂ける事で、認知症への理解を深めて頂ける様努めている。運営推進会議を通し、普段の生活の様子を知って頂き支援の方法等もお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度会議を開催している。施設の近況をDVDにまとめ、普段の様子を見て頂いたり、利用者様にも参加して頂き、情報を頂いたり、ご意見を頂く場になっている。	施設での暮らしの様子はパワーポイントで説明し、ヒヤリハットや事故の報告、予防策対応策を検討し、利用者を含めた参加者から意見情報を得ながら改善策を検討し実践している。家族にも可能な限り参加してもらい協力して貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や催し物に行政や地域の方の参加を呼び掛け、施設の雰囲気や状況を知って頂ける様にしている。毎月介護相談員の来訪があり、入居者の声を拾って頂き要望等があれば職員に伝えて頂ける様な関係作りに努めている。	運営推進会議で意見を貰ったり、相談に乗ってもらっている。施設行事の参加を依頼し様子を知ってもらえる様に努めている。毎年中学生の福祉体験を受け入れ、利用者との交流や介護の様子を学んでもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がしっかりと理解し、取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠をするが、それ以外は常に解放しており、基本的には自由に行き来が可能な環境にある。	全職員が「しないケア」を理解をし、取り組んでいる。常に言動に気を付けながら対応している。玄関はドアも扉も解放され、行き来が自由である。散歩をしたり、外のベンチで寛いだり、洗濯物を干したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員がしっかりと理解し、取り組んでいる。会議や研修においても常に話し合い、職員間で注意喚起をしあっている。特に言葉での虐待においては、何気ない言葉でも虐待に繋がる事を理解し、制御する様な言葉が無い様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には出来る限り、最大限の情報提供を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問を聞き出して丁寧な対応に配慮している。契約時には改めて施設見学も行って頂いている。利用者様及び家族様にとって安心して利用出来る施設だと納得して頂いた上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やイベント時にご家族と話す機会を持つようにしている。面会に見える機会の少ない方や、お時間のない方には電話やメール等で家族様の思い等を確認する事もある。	面会時に意見や要望を聞ける機会を作っている。個別面会ノートに、思いを自由に記入してもらっている。担当職員は毎月利用者の近況や予定を詳細に記入し家族に郵送している。玄関には、外部への相談案内が貼ってあり、意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議において意見・提案を話し合っている。週報や申し送りノートも活用し、要望等は直接社長にも届く様に出来ている。管理者は随時職員と意見交換を重ね、出来る限り早めに反映する様努めている。	管理者は職員とのコミュニケーションを図り、意見や提案を言いやすい雰囲気作りに努めている。毎月の定例会議でも活発に意見を出し合っている。申し送りノートも活用し、要望等は社長に届くシステムであり、反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な自己評価・管理者の評価を行い、日々の努力や実績を考慮し能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。外部研修やOJT等は自己啓発・スキルアップの為に積極的に参加する様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った研修を受ける機会を設けると同時に研修内容を掲示し職員が行きたい研修に行けるように対応している。研修後は報告書提出後にその月の会議で皆に報告し、全員で共有出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や施設見学等を行い他事業所との交流を持ち、ネットワーク作りを行いサービス向上に繋がる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に必ず面談等を行い、ご本人やそのご家族から困っている事、不安な事、希望を出来る限り聞き取らせて頂いている。必要であればその時間を何度も設けており、ご本人が安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望のご本人が同席していた場合に、必要時一旦ご本人から離れた場所で、ご家族が困っている事や不安な事、要望等について入居申し込みの段階から聞き取りを行い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況、生活環境等の情報収集をサービス導入する段階で行い、どのような支援が必要か検討している。必要時には他のサービス利用等の様々な方法を検討し提案させて頂く事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護するという一方的なサービスにならない様に利用者様の個性に合わせて役割を見つけ支援を行っている。日々の生活でコミュニケーションを図りながら共に暮らす者としての関係を築く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との繋がりが切れない様にこれまでの関係性を崩さず、協力して頂ける様に支援している。毎月のお手紙やメール、電話を用い細めに連絡をし、共に本人を支えていける様な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話の受け入れ、お手紙、外出支援を行っている。ご家族やご本人より特別な要望があればその都度対応している。	家族の面会が多く、面会を継続してもらえる様訪れ易い雰囲気作りに努めている。利用者と近所のスーパーに買い物に行ったり、毎日の散歩で近隣の住民と挨拶を交わしたりして、顔なじみの関係作りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には利用者様同士の関係は各々に任せ色々な形があっても良いと思いい見守り支援をしている。個々のお部屋で過ごす時間も尊重している。必要に応じ職員が介入し交流が持てる様に努め孤立する事がない様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば受け付ける体勢を取っている。退所された利用者様からお手紙が届いたり、施設で看取りをさせて頂いた家族様やその知人達と近況を話し合い、故人を偲ぶ事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を言葉で伝えられる方はその内容を把握し、添える様努めている。言葉で伝える事が困難な方は表情や動作で察したり、家族様から聞きその方の思いを検討し、添える様努めている。	利用者と職員は馴染みの関係ができてい。日常生活や会話の中で、ふとした表情やしぐさで、思いをくみ取れるように努めている。細かな記録を利用して想いや意向を共有し、その思いに沿えるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を使い情報提供して頂いたものを基に日常会話やご家族・知人の方々からの情報も取り入れその方の生活歴、馴染み等の把握に努める。以前利用していたデイの通い帳等も見せて頂き、どの様に過ごしていたのか等を知る事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の過ごし方を大切にしながら言葉や表情を観察し小さな変化も記録・申し送りを行っている。日々の生活の中で出来る事、出来そうな事、出来なくなってきた事等を職員間で情報共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様・家族様の意向や情報を踏まえて、毎月の定例会議でカンファレンス、モニタリングを行っている。また、協力医療関係者からの意見も取り入れ、介護計画に反映している。	自分らしく暮らしていけるよう、本人や家族の意向、協力医や薬剤師の意見も毎月の会議でのカンファレンスやモニタリングに取り入れながら、全職員で、利用者本位の現状に合った介護計画を作成するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きや状況を個々に記録し、申し送り等でより詳細に伝え、カンファレンスに繋げている。必要時には24時間シートや体位交換表を利用し、情報を共有しやすい様努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	専門医の受診対応、法事や家族様との旅行への参加支援を行いニーズに応える様努めている。他にも利用者様、家族様からのニーズがあれば夜間外出や1対1での夕食等出来る限り受け付ける体勢を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日課でもある散歩の際には近隣の方に積極的に挨拶を行っている。地域の託児所との交流や祭り時にボランティア受け入れもある。隣接している小規模の利用者との交流も出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くのかかりつけ医の協力を得て、密な報告・相談を行う事でより良い関係が築けており、細やかな対応をして頂いている。必要時には往診や専門医への紹介状等の対応により適切な受診に繋がっている。	協力医に定期受診し、受診当日の朝、本人の些細な変化や相談事等をファクスで送り、より綿密な情報を提供しながら受診支援に努めている。他科受診の必要があれば紹介状等の対応も速やかに応じてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師が週に一回勤務しており、利用者様の状態によって処置やアドバイスを頂いている。主治医の指示のもと検尿や採血の対応や主治医への細やかな報告・相談に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院、家族様と随時、必要な情報交換や伝達ができるように面会や連絡を取れる様にしている。安定した状態で早期退院が出来る様に、主治医と意見交換や相談をする体制が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に簡単な聞き取りは行っているが入所後に重度化、終末期等の状態の変化に合わせてその都度家族様の意向を聞き取りしている。さらに主治医との話し合いも持ち適切な支援が出来るように努めている。	入所時に説明をし、本人や家族の意向を大切に考え、適切な支援ができる様に努めている。家族との関係を密にし、その時その時の状況に応じて、他の関係者にも情報、意見をもらいながら、本人家族の意向に添った適切な支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や緊急時の対応についてはマニュアルへの理解と同時に指導をしている。緊急時の対応等についての外部研修に参加したり、急変や事故発生時の初期対応についての流れは詰め所に提示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に6回の避難訓練と消防点検を行っている。職員間だけでなく、運営推進会議でも家族様やその他の参加者間で話し合う場を作り、防災に対して考える時間を持っている。防災用品や非常食等の備蓄もしている。	火災、地震、夜間等様々な場面を想定した訓練を、毎回担当者を変え、2か月に1度実施している。直近の浸水を想定した訓練では、職員が隣接するクレオンの2階まで自力で登れない利用者を負って避難した。	非常食の準備、消費期限のチェックリストも万全です。今回の2階までの避難でトイレや布団など新たな課題が出てきたと思います。職員一丸となって対応策を考えて下さい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の介護理念にもある様に「あなたらしく…」を大切に、個人の人格を尊重し、敬う気持ちを持って接している。各居室は鍵が掛かるようになっており、プライバシーにも配慮している。	利用者の個性や人格を尊重した言葉かけを心がけている。名前呼びかけは本人や家族の希望を聞きその呼び方である。利用者一人ひとりの個性や生活歴を理解し、プライバシーを損ねないように会話の内容や声のトーン、強弱にも注意をするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を理解して、自己決定に繋がる様支援している。その日のご本人の気持ちによって、入浴・散歩等の有無を決めて頂いたり、生活の色々な場面で出来る限り一人一人の希望を取り入れる様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の中には誰かのペースに合わせたいという方もみえるが、基本的には個々のペースで過ごして頂いている。急な外出等一部困難な事もあるが出来る限り会話の中から希望を聞き取り、それに添って支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には洋服や髪形等利用者様にお任せしている。必要時にはその都度何が良いか選択を確認しながら職員が洋服等を準備している。同じ服が続く時には清潔保持の為、交換を促す様な声掛けを行う事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを聞いたり、季節を感じられる旬の食材を取り入れて食事が待ち遠しくなる様な支援を心掛けている。一緒に夕食を作ったり、食器の片付け等を行い、それらもコミュニケーションの時間として取り入れている。	台所に並ぶ食材や食事準備の風景、匂いを楽しみながら利用者同士の会話が弾む。利用者と職員と一緒に食事をし、味付けや量、好き嫌いや感想等を話し合っている。後片付けも職員と一緒にし、自分専用の箸やコップを片付けていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて、食事形態や量・栄養バランスに気を付けている。定期的な水分補給を心掛け、水分不足気味の利用者様には一日の水分量を記録して一定量の水分を確保して貰える様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で口腔ケアが出来る方は声掛けなしでも洗面台で毎食後歯を磨いている。自力では困難な方は歯ブラシと口腔ウエットティで対応している。定期的に訪問歯科医によるチェックやアドバイスもあり、口腔内の清潔が保たれる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを読み取り、声掛け誘導を行っている。利用者様の表情や仕草等からもサインを読み取りトイレ介助に向ける事で不要なオムツの使用を出来る限りなくしている。	寝たきりの利用者以外布パンツで過ごしている。自然排泄を目指して、薬に頼らず散歩や体操等の適度な運動に加え、食事やおやつを工夫しながら取り組んでいる。個々の排泄パターンを読み、研修会にも参加しながら全員で情報を共有しての取り組みである。	素晴らしい取り組みだと感心しています。少しでも長く布パンツで過ごせるように取り組みを継続してください
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録表を活用し、個々に合った支援をする。基本的には水分をしっかりと摂って頂く様にしている。他にバナナジュースやヤクルト、オリゴ糖等を積極的に取り入れ、体操や散歩等身体を動かす事で、自然な排泄が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間設定はあるが、個人の希望を取り入れて入浴出来る様に支援をしている。受診や行事があっても時間を調整し、入浴が出来る様支援している。季節に応じた菖蒲やゆずも用意し、入浴に楽しみを持てる様にしている。	午後という時間設定だが、できるだけ希望に沿うようにしている。入浴が楽しめる様季節の湯があったり入浴剤が選べたり。職員は入浴を利用者とのコミュニケーション、身体状況観察の好機の間と捉え、ゆったり入と浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は個々のペースと判断に出来る限り任せている。利用者様が居室で過ごされている時には空調、照明、物音等に細心の注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬間違いがない様に職員二人が薬のチェックを事前に行い、利用者様に薬を渡した後は服薬を終えるまで側で見守っている。服薬後はチェック表にその都度記入している。症状の変化等は定期的に話し合い、主治医・薬剤師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で個々の興味や出来る事、したい事を踏まえ、それらを生活の中の役割の一部として行って頂く事で誰かの支えになっていると感じて貰い張り合いに繋がっている。1対1の散歩やドライブでも気分転換を図れる様努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の買い物の希望や季節毎の外出支援は積極的に行っている。その日のおやつを利用者様だけのミニ会議の様な形でどこにするか決めて頂く事もある。利用者様が希望している場所に職員が付き添えない場合は家族様にご協力をお願いする事もある。	毎日散歩に出かけたり、利用者の希望でスーパーに行ったりしている。伊勢神宮、花見、イルミネーションの見学等季節毎の外出や外食、地域の催し物などにも出かける。家族に協力して貰っての外出もある。利用者の希望には可能な限り添うように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様の同意を得た一定の金額でお金の所持をして頂いている方も居る。利用者様から買い物の希望があれば所持金から支払い利用者様がお金に触れる機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの希望があれば家族様に電話を繋いでいる。耳の遠い方には職員が側に付き添いフォローしている。暑中見舞いや年賀状、お誕生日等に家族様や友人に手紙を送りたい時は、可能な限り一緒に郵便局へ行って葉書を選ぶ所から支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、利用者と一緒に作品を手作りして展示している。又、音や光、湿度等に配慮し快適な空間を作る様努めている。ホールにはいつもの場所に見慣れた湯のみ等が常に置いてあり、ホッと出来る様な生活の場所となる様にしている。	季節感を感じてもらえるよう利用者と一緒に作った作品がホールに吊られ温かい雰囲気が出ていた。職員は常にホールの室温計や利用者の様子を観察しながら快適な環境に近づけようと配慮している。季節でカーテンなども取り替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内にソファやベンチを置いて利用者が自由に過ぎて貰える様支援する。夕涼みされる方、ホールでテレビを見る方、居室で縫物をする方、利用者様同士で部屋を行き来する方もおり、思い思いに過ごして頂ける様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に利用者様・家族様と相談し以前から使用している馴染みの物を持って来て頂ける様お話しする。居室には家族様やペットの写真を飾り、安心して過ごせる様にする。頂いた花で自分でドライフラワーを作り飾っている方もいる。	馴染みの物、家族の写真や手作りの作品が飾ってある部屋、シンプルに必要な物だけが置いてある部屋と個性が表れていた。月一回利用者と職員で居室の整頓、エアコンの掃除、車椅子の点検を実施し快適安全に暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活用品はいつも同じ場所に置き、利用者様によってはタンスの引き出しに入っている物のラベルを貼る事で出来る限り自立した生活が送れる工夫をしている。安全に配慮をしつつ楽しみを持って生活が出来る様な環境作りに努めている。		